

P2HD 特集②

sponsored by Panasonic

# 北陸朝日放送 新ニュースシステムが稼働

## 完全テーププレス化へ変革

北陸朝日放送(日AB、石川県金沢市)は、報道システムに、松下電器産業の半導体メモリーシリーズ「P2HD」を利用したテープレスワークフローを、2007年10月に構築。P2HD撮影機、編集機、送出に至る工程を全国で初めてネットワーク化し、順調な運用を続けている。

### ●導入の経緯

同局がテープレスワークフロー導入の検討を始めたのは06年の秋。技術局技術部副部長の北川嘉市郎氏は、「地上波のデジタル化に伴い設備更新を計画。今後、テープの時代が続くわけではないと思う、P2を選択した。カードが安価になると同時に、16-32ギガの大容量化が決定していたため、始めるなら今だろう」と決断した」という。

同社としては、1991年の開局以来、サブを中心として撮影から送出までの全面更新は初めてのことで、全国



北川氏



P2カム「AJ-HPX2100」



P2HDモバイルレコーダー「AJ-HPM100」

### ●ワークフロー概要

撮影には、P2HDカメラレコーダー「AJ-HPX2100」を5式採用(1台は輪島支局配属)。DVCPRO HD(100Mbps)で記録する。カ

### ●導入後の変化

今回の更新における最大の利点は、P2カードへのファイル記録によるデジタルレスと、その後の並行作業が可能なこと。技術局長の野呂氏は、「P2H

## 作業効率を大幅に向上

Dの導入により、ディレクターやカメラマンが自分のデスクやPCで映像を見られるので、編集作業が早くなった」と説明。記者が同時に低解像度素材を見られるため、原稿の精度が向上したという結果も出ている。

一方、「原稿を書く時間は変わらないため、粗編集が先にならなくなった」とも。P2HD導入後、運用の混乱は全くないという。

### ●カメラ&カード運用

P2HD導入後、運用の混乱は全くないという。撮影時には時間の長短にかかわらず、5スロットすべてにカードを挿入。雨や雪、海などの悪条件下でテープチェンジをする必要がなくなった。撮影中のテープ交換のタイミングを

「K2メディアサーバー」は、ノンリニア編集端末にデータを吸い上げ、GXに接続したP2用小型カーブファイルに変換して送出。トマソン「AJ-ZCM100」に、メタ情報の付いたP2ファイルでアーカイブ保存する。検索・プレビューが簡単にできる。保存した映像資産を有効活用できる。



野呂氏



ニュースサブ

撮影現場での再生や簡易編集は、P2モバイルレコーダー「AJ-HPM100」で行う。サブには、バーチャルスタジオを併設した。素材および完パケファイル(クシード)で行う。

「液晶ビューファインダーにより、現場で記者にプレビュー画面をすぐに見せることができ、その直後に収録し入れることも利点。テープのように、収録した映像の最後の部分まで送る待ち時間はなく、上書きの危険性もない。カメラマンからは、電源オンから収録開始の時間が短いとも聞いている」と(野呂氏)。

半導体記録による静音性と堅牢性に優れており、カードやカメラの故障は皆無で、取材時の不安もないという。

さらに、「カード容量の増加で使用可能な領域に入ってきた」とし、今後は制作系でもP2HDを導入する計画だと言った。現状のP2HD機器や周辺システムは、より高画質なAVCインフラ・コーデックに対応可能なシステムで構築。現在、AVC-Iで編集した時の動作スピードアップを目指しており、実用レベルが見えたところでAVC-I運用も始める予定だ。

テープチェンジの不安ストレスから一気に開放された。カードは、現場で抜き差ししないことで、紛失を防ぐことができる。湿度によるテープの張り付きといった症状も考えにくい。

「現場の意識改革が課題。現在、運用を始めて約半年が経過し、課題も明らかになってきた。当初期待していた「テープ」と述べている。



P2ドライブを設置したノンリニア編集室



小型カートマシンを導入したアーカイブ設備



P2カードは専用ラックで管理する

購入するの意図がない。社内には、メディアが変わったのだから、方法も変更しようという提案している」と完全テーププレス化には現場の意識改革も必要と同氏は話す。ただし「押し付けては反発されるだけ。技術から徐々に提案する」

しかし、「5年保証で1年目は通常保証としても、2年目以降のメンテナンス予算が今までより激減する見込みのため、ランニングコストも含め経営貢献度は大いに評価されることである」と言う。

### 北陸朝日放送 新ニュースシステム

